

くすやま美紀(樟山みき)活動報告



2018. 11. 8 NO. 236

連絡先 荻窪5-15-19-704 電話・FAX 5932-6170

区議会控室 3312-2111(内)2319

補助132号線(西荻窪駅南側～青梅街道)

住民合意のない道路計画は見直しを



第三回定例会決算特別委員会で、都市計画道路「補助132号線(西荻窪駅南側～青梅街道)」の整備方針による問題を取り上げ、現計画を見直すよう求めました。

道路の大規模拡幅 近隣に深刻な影響

補助132号線の都市計画整備方針は、西荻窪駅南側神明通りから、北側の青梅街道まで延長約1070mが事業区間で、既存道路を約16mまで拡幅する(最大で5m程度を広げる)という計画です。東京都の都市計画道路整備方針(第四次事業化計画)で区内の優先整備路線とされ、区施行路線と位置付けられています。

近隣は商店街や住宅が多く、西荻窪らしい街並みとともに、地域コミュニティ形成の核ともなっている地域です。大規模な道路拡幅により、沿線住民の多くが移転・立ち退き等を迫られることになれば、地域コミュニティが破壊されることになり、不安の声も上がっています。

50年前の計画が動き出す・・・

この都市計画は1966年に計画化され、その後、約50年間、事業化されることはありませんでした。50年前の計画に固執し、事業化を進めることは重大な問題です。

区は来年度の事業認可に向け、地権者等への用地測量を実施していますが、住民への周知も不十分です。

計画の見直しも含め、再検討を

補助132号線と同じく優先整備路線に位置づけられた補助227号線(高円寺北側)では、住民の反対の声を受け、当面計画を見守るとの方針も示されています。都市計画は住民生活に重大な影響を及ぼすため、住民の声を無視して強引に進めることは許されません。計画の見直しも含め、再検討すべきと主張しました。

高すぎる国保料引き下げへ

日本共産党が政策を発表

日本共産党は、1日、国民健康保険（国保）を立て直すための党政策「高すぎる国民健康保険料（税）を引き下げ、住民と医療保険制度を守ります」を発表しました。

知事会が要望している 1兆円公費投入を



国保制度は、国民の4人に1人が加入し、国民皆保険の医療制度の重要な柱を担っていますが、他の医療保険制度に比べて大変重い保険料負担となっています。

（記者会見する笠井亮政策委員長（左）と倉林明子参院議員）
国保加入者の平均保険料（1人当たり）は、政府の試算でも、中小企業の労働者が加入する協会けんぽの1・3倍、大企業の労働者が加入する組合健保の1・7倍という水準です。

東京23区に住む給与年収400万円の4人世帯が、協会けんぽに加入した場合、保険料の本人負担分は年19万8千円ですが、国保加入だと年42万6千

円と、2倍以上の格差が生じています。

高すぎる保険料を引き下げ、国保の構造的な問題を解決するためには、公費を投入するしかありません。全国知事会、全国市長会、全国町村会なども、国保の定率国庫負担の増額を政府に要望し続けており、2014年には、公費を1兆円投入して、協会けんぽ並み負担率にすることを政府・与党に求めました。日本共産党も賛成です。

実現すれば 大幅な負担軽減に

日本共産党の政策は、①高すぎる国保料（税）を中小企業の労働者が加入する「協会けんぽ」並みに引き下げる

②国による保険料免除制度をつくる
③無慈悲な保険証取り上げや強権的な差し押さえをやめる
④安倍政権による「国保都道府県化」を利用したさらなる保険料値上げを許さない―ことを提案しています。

この提案が実現すれば、東京23区に住む給与年収が400万円の4人世帯の保険料は、42万6千円から22万2千円へと半額近くになります。その財源は、大企業や富裕層に応分の負担を求め、大企業や富裕層に込めたいです。

日本共産党杉並区議団は、区議会でも一貫して国保料の負担軽減を求めてきました。区民のくらしと健康を守るために、引き続き、全力を尽くします。

後援会旅行で笠間稲荷 益子温泉へ



笠間稲荷で



益子でりんご狩り

11月5日、くすやま美紀地域後援会の日帰りバス旅行で、笠間稲荷（茨城県）、益子温泉（栃木県）に行ってきました。

今回は24名が参加。菊まつり、益子焼の買い物、りんご狩りなど、大満足の旅行でした！